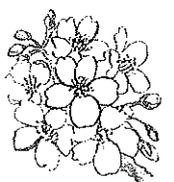


# 県退教協だより NO.99

長崎県退職教職員等連絡協議会

長崎市筑後町二一 教育文化会館内

☎〇九五―八二二―五一九五



## 衆議院選挙を終えて

会長 上川剛史

2月8日投開票の第51回衆院選は、自民党は単独過半数(233議席)を大きく上回る316議席を獲得して終えました。いつもは夜中まで選挙結果をスマホやテレビで見ると、自民党議員の万歳ラッシュをこれ以上見るに耐えなかつたので、9時ごろには冬季オリンピックの録画視聴に切り替えました。

この選挙、一口で言うと、「大義なき解散」、「選挙期間中の異常な光景」、「選挙結果後の予想される異常な国の姿」だらうと思います。4年の任期にも関わらずわずか1年3か月の最短期間での通常国会冒頭解散。国会での政策論争を見ないままの解散、また、物価高や稀にみる豪雪で通常の生活もままならない国民を無視し、予算の年度内成立をも犠牲にした大義なき解散。しかも、これに国費850億円を惜しげもなく投じる傲慢さは唾然とするばかりです。

かりです。

選挙戦が始まって異常な光景が続きます。「私が首相でいいか教えて！」と政策論争抜きの高市首相個人の人気のムード戦術、「国論を二分する政策の実施か否か」と言いつつ二分する政策も語らず、野党の追及を恐れてかNHKの討論番組も欠席しました。憲法や安全保障など明確な対立軸があるにもかかわらず、消費減税を言い出し「明確な対立軸が見えにくい」とマスコミに言わせるなど、与党は政策論争を避けました。今度の選挙期間中最も驚いたのはSNSでの拡散です。私もYouTubeを見ますが、高市政権に対しては好意的、中道連合やリベラル政党に対して否定的なものばかりです。中国との関係悪化も「高市よく言った!」、「中国に備え軍備強化を!」と高市礼賛。国会で高市首相を追及をした立憲の議員に対しては「中国のスパイ」、「国賊」と罵るばかり。英国のタイムズ記者は「政策論争ではなく『熱狂の作法だ』」と指摘しています。まるで、ナチスと同じ手口に見えてきます。今は、右寄りな意見が受けるばかり。国民の願いを真に体現できる「こちら側」の斬新なリーダーの登場が望まれます。これらSNSの動向を軽く見ると次はもつと悲惨な目に遭います。さて、最も憂うべきは、選挙の結果を受けての今後の国の姿です。まず、中道・リベラル政党の崩壊です。公明党が連立離脱したとき、立憲は公明と選挙協力すべきだと私でさえも思っていました。それが新党設立、しかも安保法制や原発の政策を一夜にして転換し未完成のまま選挙戦に突入しました。旧立憲は、小選挙区で重鎮も落とし、比例でも公明を優先したため公示前の三分の一、社民党は初めて0議席に終わり、比例でも全国の得票率も国政政党の要件である2%を大きく下回りました。(ただ、この選挙のみでただちに国政政党をはずれることはないのです。)

この国会の状況では、大軍拡、スパイ防止法の制定、非核三原則の見直し、武器輸出規制の撤廃、旧姓使用の法制化、対中強硬路線の堅持、裏金議員の名誉回復：と高市政権が目論む右翼的な政策が大きく前進することが危惧さ

れます。憲法「改正」まで進むことは間違いありません。また、たとえ与党が何らかの失政でこけたとしても、これまでのように野党第一党が国民の不滿の受け皿になり政策の転換を図るのではなく、より右の政党や与党を補完する野党に票が行き、右寄りの政策の修正は難しくなります。

多くの国民は、漠然とした不安と現状変更、「熱狂の作法」から高市氏を支持したのであって、必ずしも高市氏のタカ派的政策を支持してゐるわけではありません。また、比例での投票率では大敗した中道連合も自民の半分近くは獲得しています。少数の野党も今後臆することなく国会論戦を挑んでいたことが衆議院で4分の3を占める今こそしつかり政治を監視し、物を言っていく必要があります。ともに頑張りましょう。

## 五者台同学習会

### 組織活動交流集会報告

副会長 本多 稔

第31回五者台同学習会が「安心して心豊かに暮らせる社会をめざして」をメインテーマに、昨年10月9日東京のラポール日教済において開催されました。開会挨拶、主催者挨拶の後の基調報告は、①働き方改革、②人事院勧告、③26年度予算概算要求、④インクルー

シブ教育の推進、⑤学習指導要領、⑥小学校における教科担任制、⑦部活動の地域移行の7項目でした。講演Iでは地方公務員退職者協議会事務局長川端邦彦氏による「大砲No! バターYES! 社会保障を育て守るために」という報告がありました。その内容の骨子は、①大砲とバター、②家族・賃金・社会保障、③25年年金制度改正、④公的年金保障の成り立ちと現状、⑤日本社会と社会保障という項目設定で、スライド35枚を使って詳しい報告がなされました。川端氏は最後に、社会保障は第1次分配が生み出す矛盾を補正する再分配の制度で規模・内容ともに日本の経済社会にとって不可欠な存在であり、必要な改革はするべきと結びました。講演IIでは全国被爆二世団体連絡協議会事務局長の平野克博氏による「被爆二世として生きる」という内容の報告でした。内容骨子は ①被爆者とは、被爆二世とは、②裁判闘争に至るまでの経緯、③弁護団、④請求の内容と訴訟の目的、⑤これまでの主要な争点、⑥長崎・広島地裁と広島・福岡高裁判決、⑦判決の問題点、⑧裁判闘争の意義、⑨今後の取り組みというものでした。

第31回日退教組織活動交流集会は翌日の10日、同じ会場で開催されました。全体会ではまず、主催者挨拶、来賓挨拶があり、その後「組織現況調査」報告と基調報告が藤崎喜仁日教組組織部

長よりなされました。2020年以降2025年までに、全国での会員数が約9千人減少しているという報告がされ、長崎県でも組織拡大が喫緊の課題になっていきます。全体会の後半には、石川県支部の柿平哲夫氏による「能登半島地震を経験して」3つの視点からの報告がありました。午後より2つの分科会に分かれました。第1分科会では、5本のレポートの報告・討議がなされました。①組織拡大・強化と愛知退教連の目的(愛知退教連)、②退教互とともに「現退一致」で取り組んだ2025参院選の活動、③戦後80年8・23夏の平和集会、清水空襲を忘れない(静岡県退教)、④伊方原発の反対運動(愛媛県退教)、⑤フッドバンク奈良・スクールフッドドライブのとりくみについて(奈良高退教)

## 佐世保の地域活動

事務局長 濱田 稔

### (1) 組織の紹介

現在佐世保退教協は全部で14の班から成り立っています。その14班を6個の分団に分けて編成していますが、分団としての活動は現在行えていません。各班には班長を置き、班によって班長の仕事を手伝う世話係を置いてある班もあります。班長は班長会に参加したり、班長会の文書を班員に手渡しで配布したり、電話連絡をしたりす

る仕事があります。また、年度初めには班員の会費を徴収してまわります。班長が徴収できない班員の分は役員が徴収しています。

## (2) 活動内容の紹介

具体的な活動として、まず会議関係では定期総会を毎年4月におこなっています。また、班長会を年に7回、役員会を10回程度行っています。また、会員の交流を深めるために、総会の後に懇親会を行い、7月の班長会の後に団結会、12月に忘年会、1月には旗開きを行っています。それから、毎年「健康ウォーキング」を行っています。本年度は残念ながら雨天のため中止になりました。その他、他の団体の活動にも可能な限り参加するようにしています。例えば、高問連行事の輪投げ大会、研修旅行。地区労主催の各種集会、学習会。市民の会主催の19日平和行進、9の日の座り込み等です。

## (3) 課題

今後の課題としては、何といつても組織拡大です。高齢化により年々会員は少なくなり、10年前と比べて半減しています。また、再任用制度の影響もあって新しく入ってくる人も少なく減少傾向は止まりません。今後はきめ細かく退職者の情報を集め声掛けを続けようと思っております。それから組織強化の面からどうしたらよいか考えていきます。現在の活動のままでは、なかなか会員が集まることができないでいま

す。どんな取り組みをしたら一人でも多くの仲間が集まって「参加してよかった。」「退教協に入っていてよかった。」と思ってもらえるのか考えていきたいと思えます。

## ヨ力活動

「集まって喋る楽しさ」を求めて

大東会長 川崎 学

大東は、大村市をA班とB班に東彼をC班として3つに分け、これまで年間で日帰り旅行1、GG大会などの身体的活動2と3回レク活動を行ってきた。しかし、会員の減少で3回が難しくなり、今年度は2回の計画です。1回目は、A班担当で11月13日に四季菜という食事処で2千円会費で「お喋りと食事会」をしました。このよう

な会は、昨年度の3月28日にB班の担当で実施して今回で2回目になります。会は15人集まりました。川崎会長の挨拶と富崎副会長の音頭による乾杯で始まりました。あまり豪華ではありませんでしたが、みんなでいただく美味しい食事です。そして、久しぶりに集まったら、誰しも喋りたくなるものです。参加者全員の近況報告では、一人3分の時間ではとても足りませんでした。地区労や県退教協・退女教、地域の課題に先頭に立って闘っていること、スポーツを現役として楽しんでいること、自然と親しみながら生活を満喫し

ていることなど、苦労話や自慢話に花が咲きました。そして2時間という時間はあっという間に過ぎてしまいました。何時間でも話がしたい、話を聞きたいとみなさん思い、また会おうと解散しました。この会のこと、A班の世話役の土屋さんが会長名で「親睦会報告」を作り、大東の全会員に配布しました。

2回目は、C班担当です。3月12日に「戦争遺跡巡り」を行います。道の駅彼杵の荘に9時に集合して、マイクロバスで、片島(魚雷発射試験場)、震洋(特攻兵器)展示館、無窮洞(第二次大戦の最中当時の小学校の教師と児童が掘った防空壕)の戦跡を巡ります。案内役は同じ会員の中浦さんが担当します。参加にあたっては、集合場所までの交通手段のない会員には、他の会員が送迎をするという配慮をして、できるだけ多くの仲間が参加できるようにしています。この活動の案内は、大東の退教協だより「お元氣ですか143号」に載せています。配りに配っています。戦跡巡りの学習は午前中で終わりますので、昼からはそれぞれで自由に彼杵宿や周辺を散策したりして楽しみます。



第1回食事会 2026.3.28

## 北松地区退女教の活動

声をかけあう退女教

会長 白石桂子

北松退女教は、2026年2月現在29名です。高齢、他県への引越し等様々な事情によりやめられる方もいて、平均年齢も年々高くなる一方です。主に平戸地区と南部(旧北松地区)、松浦に分かれて活動しています。総会以外の活動は二つあります。

その一つ、毎年1月頃行う新年会。「これが楽しみで」と言いながら娘さんの車でニコニコしながら来られる93歳の先輩もおられます。顔を合わせて話すことで、いつも元気をいただいています。もう一つは、地区定例会という名の千羽鶴を繋ぐ活動です。8月に長崎市で開催されている「あの夏の日」の像の慰霊式に、北松退女教からも千羽鶴を捧げる活動が続いているのです。今年度も会員のみなさんが知り合いにも呼びかけたりして、4千羽の鶴を送ることができました。その中の千羽は、お一人で折ってきれいにまとめられたものです。皆様の平和への祈りが込められています。北松退教協との交流もあります。退教協主催の合同旅行に退女教メンバーも参加させてもらいました。11月下旬、武雄市の図書館や芸術環境の森へ行きました。その日はとても良い天気にも恵まれ、青空の下赤やオレンジ色の素晴らしい紅葉を楽しむことができました。参加者相互の交流もでき

て有意義な一日を過ごしました。

退女教活動は、一人ひとりの会員の皆様に支えられています。新加入もなかなか難しい現実ですが、一方で「私が声を掛けてみるね」という頼もしい仲間もいます。これからも、できることをできる人がするという気持ちで活動を続けて行きたいと思えます。

## 九州ブロック沖縄集會

事務局長 西村祐一

3月5日の昼から翌日の昼までの日程で、沖縄県那覇市の教育福祉会館(沖縄高教組本部)で、第35回研究会と第48回定期総会がありました。長崎県からは上川会長と西村事務局長2名が参加しました。この会は各県持ち回りで毎年開催されています。飛行機の関係で40分遅れて会場に到着し、開会行事は終わって北上田毅さん(元土木技術者で沖縄平和市民連絡会)の講演が始まっています。内容は現在進行中の辺野古新基地問題。ずさんな工事と莫大な建設費が具体的に指摘されました。

研修会では会長が組織全体を討議する第1分科会に、西村が第3分科会に参加しました。第1分科会では、各県・高退教協から、少ない退職者となかなか増えない会員と財政の問題など厳しい組織の現状が報告され、これから何をどうすべきかを論議しました。第3分科会では長崎から一人の繋がりと

組織運動」という題で西村がレポートしました。分散している会員を何で繋いでいくかという身近な問題が討論の中心となりました。

翌日の総会は、型通りの経過報告と次年度の、特に改憲の動向動きに注意する運動方針が提起され承認されました。来年は宮崎です。陸続きです。参加の方法を工夫して4人は行きたいと思っています。

## 編集後記

編集委員 池田哲夫



日に日に世界が悪くなります。気のせい、か、そうではありません。朝ドラの「ばけばけ」の主題歌のような世の中になっていきます。高市氏の衆議院解散総選挙により自民党の我が世の春になりました。しかし黙って眺めてはいけません。何らかの抵抗と反対の声を上げ、高市氏の為すがままにしてはいけません。トランプ大統領の関税脅しは、アメリカの貿易の黒字化に何の役にも立たないことが分かっています。高市氏の失敗であると分かっています。国民は塩竈神社の馬ではありません(宮城県塩竈市の神社で、目の前に人参のえさ箱があり、参拝者がお金を入れると馬の口に届くようになっていて)。高市氏はこの神社の馬の状態にして国民を支配しようと思っています。